

【4】 実践事例

—授業づくり—

[1] 中学部の授業づくりについて

中学部のテーマを「自分なりのめあてを持って、自らの活動を楽しむ子」と設定し、生徒が、次のような姿に近づくことを願いながら実践を行ってきた。

- ・毎日の生活の中で自ら行動を起こし、行動すること自体に没頭し、またやりたいという次への意欲を持つ。
- ・機会を見つけていろいろなことに挑戦してみようと行動を起こしたり、人と関わりを持とうとしたりする。

昨年度は、生活単元学習を中心に①題材選定の視点を明確にすること、②一人ひとりの個性を尊重し、個に応じた支援を工夫すること、③一人ひとりの自己反省が次へとつながるように目標を設定することを授業づくりの観点とした。この考えや取り組み方は中学部の教育課程全般に及ぶものであり、生活単元学習のみならず他教科の授業づくりにおいても、その必要性を感じた。そこで、本年度は「生活を楽しむ」に視点をあてた授業づくりをどの教科、どの領域で実践するのかを検討した。

(1) 研究教科・領域の見直し

まず、昨年度行った生徒の観察やアンケート結果を見ることにした。その結果を次に述べる。

- 生徒が学校生活のどのような場面で特に楽しんでいるかという実態調査から、生徒が教科・領域に限らず、学校でのいろいろな活動を楽しんでいるという結果が担任の観察より出ている。
- 「学校が楽しい理由は何ですか」・・・体育、スクーターボード、シュート、プリント、農園、給食、おしゃべり、友だちがいる、自転車、勉強が好きなど
- 「学習で得意なことは何ですか」・・・音楽、美術、体育、農園、作業、サッカー、ダンス、水泳、あやとび、クラブ、委員会など
- 「学校でしてみたいことは何ですか」・・・ビデオ鑑賞、工作、歌を聴くこと、腕相撲、ゲーム、音楽、クラブ、委員会など

新しいことではなく、既に経験したことのある中から楽しみを見いだしている。

このようなことから、研究を他の教科や領域に広げることで、生徒の活動する場が増え、生徒がより主体的に学習に取り組めることが多くなるのではないかと考えた。また、このことから生徒一人ひとりを多面的にとらえ、個を生かした授業づくりができることを昨年度までの経験を踏まえて確認し合った。しかしながら、生徒が目的意識を持ち、具体的な活動を通して意欲的に取り組める生活単元学習は、中学部の教育課程編成の中核であり、研究テーマに迫る授業づくりにふさわしいことから、昨年同様、大事にしていきたいと考えた。

(2) 「音楽科」「体育科」「書く」を研究の中心にすえて

中学部の授業づくりでは、次のような視点で題材の選定と支援の工夫に取り組んでいる。

〈題材の選定〉

- ・生徒の意思が取り入れられ、活動が思い切りできる。
- ・自分の体を思い切り使い、自分にもできると確認することができる。
- ・友だちと話し合っ決めて決めることがある。決めたことが自分たちで実行できる。
- ・いろいろな人との関わりがある。
- ・生徒一人ひとりの力が発揮できる場がある。
- ・実社会との関わりがあり、獲得した力が実際の生活に生かせる。
- ・勝敗を意識し、勝つことを目標に力いっぱい取り組める。
- ・つらい、むずかしい、できないかもしれないと感じるが、がんばったら、ひょっとしたらできるかもしれないと見通しが持てる。自分なりにできたと喜べる。

〈支援の工夫〉

- ・一人ひとりの個性を尊重しながら、個や学年の実態に応じた意図的な題材を選定する。
- ・一人ひとりの実態を多面的にとらえ、学習場面での楽しんでいる姿を共通理解する。
- ・教師の意図を反映した目標を生徒一人ひとりが持ち、自己反省をして次の意欲へとつなげる。

上記の題材の選定と支援の工夫を踏まえ、中学部では本年度新たに「音楽科」と「体育科」を研究教科とした。その理由は、次のとおりである。

- ・音楽、体育に興味関心を持っている生徒が多い。
- ・中学部の教育課程の中に音楽は週 2時間、体育は週 3時間と位置付けられている。
- ・1時間の学習を充実して楽しむことができる。
- ・技能の習得で困難なことや失敗があっても再挑戦し、やり遂げたという達成感を持つことができる。
- ・授業以外の生活の中にも活用でき、生活を豊かに潤いあるものにすることができる。
- ・現在の生活だけでなく、将来へと発展し、つなげていくことができる。

そして、この2教科に加え、「書く」ことを研究場面での授業づくりの一つとすることに決めた。これは、生徒の将来を見据えた、つけたい力として教師側が意図したものであり、「音楽科」や「体育科」と同様、習得するまでに時間がかかるが、「文字が書ける」ことで生活に拡がりができる。また、その場にはいない人とのコミュニケーションができた、自分のしたことを記録し、自分を見つめることで自分づくりへと発展することができたりする。このような意図を持って「書く」ことを取り上げた。この「書く」ことは、主に生活単元学習、課題学習、日常の生活指導での取り組みが中心となる。

このように、研究を「音楽科」「体育科」「書く」を中心とし、昨年度からの「生活単元学習」も引き続き実践していくことにした。なお、授業は「音楽科」と「体育科」は中学部の生徒全員が合同で、「書く」は学級毎に取り組んだ。